

## 受診抑制

コロナが怖いのだ。マスクにメガネ、さらに手袋と完全武装している患者さんがいた。体調が悪いのに受診を躊躇する<sup>ため</sup>ひとや、治療を中断する患者さんも少なくない。受診抑制である。

そんなコロナも、ワクチンさえ接種できれば大丈夫だろう。と、期待は大いに膨らむ。その一方で、ワクチンの副反応も怖い。日本では、なぜか女性にアナフィラキシーショックが多くみられる。偶発例のようだが、くも膜下出血で亡くなったひともいた。

ヨーロッパでは、若い人にも静脈血栓や脳出血の死亡例がみられ、ワクチン接種が一時中断された。不安は募るばかりである。

でも、コロナって、そんなに怖いものなのだろうか？コロナウイルスによる死者数は、日本では約1年で8千人以上になる。2018年の調査では、インフルエンザによる死者数は、約1年間で約3300人であった。

コロナによる死者数は、インフルエンザの2・5倍くらいになる。数字だけなら、コロナは確かにインフルエンザよりは怖いことになる。だが、くも膜下出血などの脳血管疾患の死者数はコロナの10倍以上、心疾患の死者数は20倍以上になるのである。これらの病気は怖くないのだろうか？

ところで、この心疾患や脳血管疾患の治療には、生活習慣の改善や高血圧、高脂血症などの服薬が欠かせない。かつては日本人の死因第1位であった脳血管疾患が4位にまで下がったのは、主に食事の改善、塩分制限や降圧剤の服用にあったことを忘れてはいけない。受診抑制のせいで、これらの疾患が増えてきたらどうしよう。

目先のことにとらわれて、大事なことを忘れる。脳がそうさせるのだ。「コロナの予防も大切だが、持病の管理も疎かにならないように」と、ワッシー<sup>おん</sup>ことわざが言っても馬耳東風であろうか。

(石黒修三||いしぐろクリニック・脳神経  
外科専門医…3/29北國新聞掲載)